

SDGs に関連したシンポジウム

A Symposium Related to SDGs

<プロジェクト・メンバー>

南部 和香^{†1} 長橋 透^{†1} 石田 博之^{†1} 村田 和義^{†1}
高村 正志^{†1} 吉田 葵^{†1}

Nambu Kazuka^{†1} Nagahashi Toru^{†1} Ishida Hiroyuki^{†1} Murata Kazuyoshi^{†1}
Takamura Masashi^{†1} Yoshida Aoi^{†1}

^{†1} 青山学院大学 社会情報学部

^{†1} School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

キーワード：SDGs, 産官学プロジェクト

Keywords: SDGs, Collaboration of industry, government and academia, symposium

1. プロジェクトの目的と概要

本プロジェクトは、SDGs の目標達成に向けた取り組みとして産官学が連携して学びの場を構築することを目的としている。また、本シンポジウムは一般参加が可能であるため、本取り組みは近年大学に求められる教育機関による地域貢献の一つであると考えている。

今年度は、SDGs の目標達成に向けた取り組みの一つとして、脱炭素社会の実現に焦点をあてたシンポジウム「脱炭素社会の実現を目指して一産官学の視点から」を行った。脱炭素社会の実現は重要であることを多くの人が認識しているものの、どのように実現できるのか、実現に向けてそれぞれの主体がどのような取り組みをしているのかは見えづらいところがある。本プロジェクトは、このような背景と問題意識のもと、脱炭素社会の実現に向けて企業・自治体・大学・研究機関・地域社会の相互理解が進むことを期待して企画されたものである。

本シンポジウムでは、企業・自治体・研究機関それ

ぞれの立場からの講演に加え、同日午前中に開催された「ZERO CARBON ポスターセッションチャレンジ」（主催：相模原市、企画運営：社会情報学研究センター）の受賞チームによる講演も行われた。学生はもとより関係者や市民にも公開するシンポジウムを開催することで、産官学および地域で連携して脱炭素社会の実現について考え、そこで得られた情報や知識を共有する機会となった。

2. 本年度の取り組み

2-1. 経緯

本プロジェクトは、2021 年 3 月 25 日に社会情報学部が相模原市の「さがみはら SDGs パートナー」となったことを契機としている。本年度のテーマは、本学が相模原市より委託された「ZERO CARBON ポスターセッションチャレンジ」事業について相模原市ゼロカーボン推進課と事業内容について検討したこ

とをきっかけとしている。本学部が上記委託事業の企画運営を担当している観点から、SDGsとも関連深い脱炭素社会の実現について産官学の複数視点による学びの場を提供することが重要であると考え、委託事業とは別の取組みとして、脱炭素社会の実現をテーマとするシンポジウムの実施を決定した。

また、本年度のシンポジウムは大学の基準に従った適切な措置のもと、対面で実施されることも決定された。

2-2. 経過

7月よりプロジェクトメンバー内での打ち合わせをスタートした。主な経過は以下の通りである。

- 7月 実施内容検討、学内部署に確認
- 8月 相模原市関係部署への問合せ
- 9月 実施内容・日程検討
- 10月 学外講演者への打診
- 11月 講演内容調整
- 11月23日 勉強会開催
- 12月 Web参加申し込み開始
- 12月17日 シンポジウム

3. プロジェクト内容

3-1. シンポジウムの背景とSDGsゴール

本シンポジウムのタイトルは「脱炭素社会の実現を目指して―産官学の視点から―」である。地球温暖化対策推進法の改正により「2050年までの脱炭素社会の実現」が基本理念として法律に位置付けられた。2050年での目標達成に向けて、さまざまなステークホルダーが協力して脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推し進める必要がある。このような観点から、本シンポジウムでは「産官学の視点」をサブタイトルとして設けている。

本テーマのもと、学外の組織と連携してシンポジウムの準備を進めることとなった。講演者として、佐々

木宏一様（日本エネルギー経済研究所 環境ユニット 担任補佐 研究主幹）、能田健介様（東京ガス 都市エネルギー営業部 公益営業部 法人第一担当課長）、宮崎健司様（相模原市 環境経済局 脱炭素社会・資源循環推進担当部長）のご協力を得ることができた。

また、本シンポジウムが想定するSDGsのゴールは以下の4つである。



図1 本シンポジウムと関連するSDGsのゴール

3-2. 勉強会

11月23日に、社会情報学部の石田博之先生による勉強会「エネルギー・地球温暖化問題を考える」が行われた。勉強会を通して、地球温暖化問題やエネルギー需給の現状を知るとともに、脱炭素社会の構築・実現に向けた課題などを学ぶ機会となった。

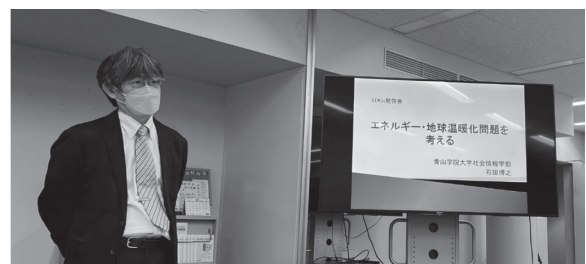


図2 勉強会の様子

3-3. シンポジウム申し込みフォーム

参加申し込みフォームは、Google フォームを利用して作成した。

3-4. 配布チラシ作成

図 3 が作成・配布したシンポジウムのチラシである。



図 3 本シンポジウムの配布チラシ

3-5. 広報

図 4 から 7 は、それぞれ大学広報（図 4 と 5）、さがみはら SDGs パートナー（図 6、[1]）、さがまちコンソーシアム（図 7、[2]）を通じて行ったシンポジウムの広報活動である。これら以外にも学部 HP などを活用した。



図 4 大学 HP のイベント情報



図 5 青山学院大学 SDGs 取り組み事例一覧への掲載



図 6 さがみはら SDGs パートナーズフォーラムへの掲載



図 7 さがまちコンソーシアム イベント情報の掲載

4. 実施報告

4-1. 実施日時等

実施日時等は以下の通りである。

シンポジウムタイトル：青山学院大学社会情報学研究センター主催 SDGs シンポジウム「脱炭素社会の実現を目指して-産官学の視点から-」

日時：2022 年 12 月 17 日（土）12:40-14:30

場所：相模原キャンパス E204

開催方法：対面

4-2. 参加状況

シンポジウムへの直接申し込み件数は5件と多くはなかったが、同日午前中のイベント「ZERO CARBON ポスターセッションチャレンジ」から引き続き参加して下さった方々もあり、参加者総数は約40名となった。他大学の学生や地域の方々の参加もあったことから、本シンポジウムが目的としていたさまざまな主体における知識と情報の共有および相互理解の場を提供できたと評価している。

図8はシンポジウム当日の様子である。



図8 シンポジウムの様子

5. 来年度に向けて

本プロジェクトは、脱炭素社会の実現に関して企業・自治体・研究機関による複数の視点からの学びをもとに、産官学に加え地域社会においても知識と情報の共有および相互理解が進むことを期待して企画実施された。本シンポジウムの実施を通してこの目的は達成できたと考えている。

来年度も引き続き、産官学で連携しながらSDGsに関わるテーマでのシンポジウムを企画実施していきたいと考えている。

参考 URL

- [1] さがみはら SDGs パートナーズフォーラム ,
<https://sdgs.city.sagamihara.kanagawa.jp/partnersforum/aoyama/>
- [2] さがまちコンソーシアム
<https://sagamachi.jp/event/8581>